



二次医療圏唯一の基幹病院として 迅速な救急医療の提供を実現

vol.59

病院新時代

地域救命救急センターと総合患者サポートセンターを新設し、高度化・複雑化する地域の医療需要に応えながら、患者に寄り添った医療提供をめざす。



山形県立新庄病院

(山形県新庄市)

山形県立新庄病院の新たな視点

- 救急医療提供体制の強化
- 医師会、市町村、保健所との綿密な連携
- 地域唯一の分娩取扱い機関を堅持し地域医療を守る

1 自然をイメージした緑をアクセントカラーに取り入れ、診察室などにはアルファベットや数字の看板で誘導している 2 小児科では地域の四季や自然をモチーフとした壁紙が採用されている 3 司書(委託)を配置した図書室は1000冊を超える蔵書がある 4 総合患者サポートセンターでは病院・市町村・保健所の支援を受けることができる 5 障がい児リハビリ専用スペースを設け、発達障がい児の感覚統合訓練などもできる 6 ベッド周りの設備はモデルルームで実物を見ながら使いやすさの検討を重ねた 7 右から八戸茂美院長、新病院整備課の倉金誠さん

長時間の手術の際には外の景色でリフレッシュもできるよう窓が設置されている



山形県立新庄病院
〒996-8585
山形県新庄市金沢720-1
TEL: 0233-22-5525
診療科: 28科
病床数: 325床(地域救命救急センター10床、地域包括ケア病棟50床、一般病棟265床)

医療圏唯一の分娩取扱い機関である同院は、地域住民の出生から最期まで一生涯にかかわりを持つ。「住民の皆さんのご尽力で新しい病院が完成しました。皆さんが愛するこの地域で安心して暮らしていただけるよう地域医療を守り支えていかなければならない」と、八戸院長は厳しくも穏やかに決意を語った。

「総合患者サポートセンター」だ。ここでは同院の入退院支援のほか、最上地域の8市町村が共同で「@ほーむがみ」を運営し介護・福祉サービスの情報収集と発信を担う。また、最上保健所が行政手続きの相談・支援を行い、それぞれの担当病院建設にあたっては現場スタッフの意見を取り入れることにこだわった。工期中に敷地内に個室と4床室の病室モデルルームを設け、見学会を開催。新病院整備課の倉金誠さんは「見学会での意見を反映し医療ガス配管や診療機器電源をベッド脇に集中配置し、使いやすいレイアウトにしました」と話す。

形県最上二次保健医療圏の基幹病院である県立新庄病院は10月1日に移転改築した。新病院では医療圏で初めてヘリポートを備えた地域救命救急センターを開設したほか、標榜診療科を7科新設するなど地域医療の充実を図った。八戸茂美院長は「仁・愛・和」の心をもって、地域住民に安全、安心、信頼を与える医療を提供し、病院機能の強化を図りながら将来にわたり持続可能な病院経営を行っていきます」と使命を話す。

地域救命救急センターは新庄市や新庄市最上郡医師会と連携した初期救急医療の提供体制を構築。もともと新庄市が別の場所で開業医の当番制で夜間休日診療所を運営していた。その機能を同センターに移転したことで、救急医療がより迅速に提供できる。

加えて、患者の療養環境の向上につながる施設として特徴的なのは「総合患者サポートセンター」だ。ここでは同院の入退院支援のほか、最上地域の8市町村が共同で「@ほーむがみ」を運営し介護・福祉サービスの情報収集と発信を担う。また、最上保健所が行政手続きの相談・支援を行い、それぞれの担当

撮影=佐久間直美